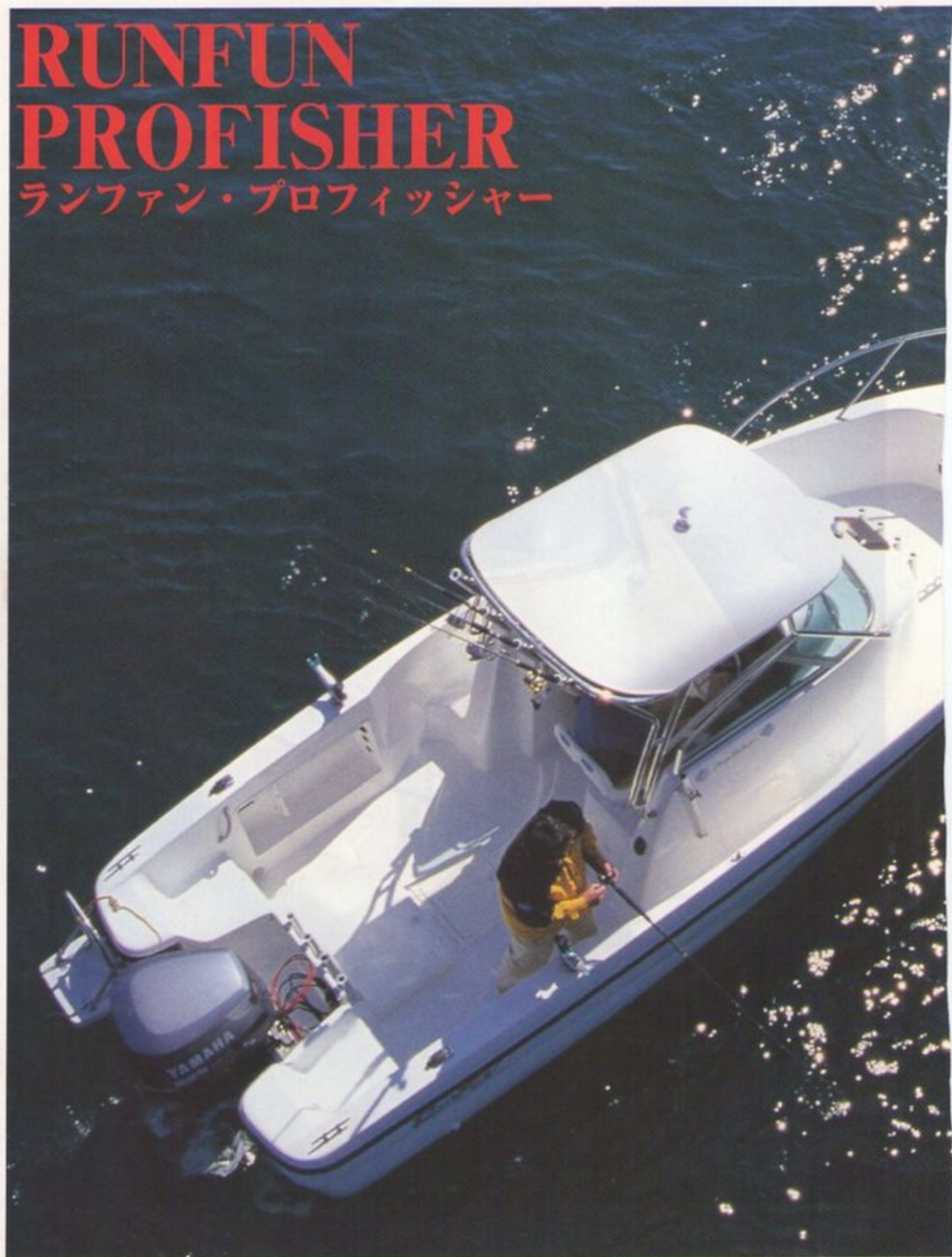


「プロファイツシヤーマン」デビュー
ランファアンシリリーズのフラッグシップ
ファイツシヤーマンの夢を実現した

RUNFUN PROFISHER

ランファン・プロフィッシャー





A-3

2-

88



今流、フィッシングボートの宿命は、絶対的な走りの良さにある。



右頁：ヤマハの225馬力をマウントし、最高速40ノットオーバーで快走するランファン・プロフィッシャー。後のランファンシリーズ同様、安定した走行フォルムが写真で解る。
 左頁上：サイドアキスル。取手を高にするランファン22と、ボトム形状、サイドハルの印象は同様で、好印象。注目：トノクラフト社の代表外周氏のデザインによるハードトップで、簡やかでR形状を持たされ、デザインセンスの良さが伺える。写真では下方からあおっているために、Rの効きは強調されている。
 左頁下は、スターンフォルム。試乗時にはヤマハ製225馬力の大型船外機がマウントされていたが、これは標準上限、90馬力から各種エンジンが設定される。

ランファンファミリーの血統を受け継いだニュータイプ

ランファンファミリーに新たな仲間が加わった。名前をプロフィッシャーと言った、22フィートの全長を持つ。名前の通りバリバリのポイントフィッシングファン対応のフィッシングボートを前提に開発、建造された。もちろん一連のランファンシリーズが持つ高いポテンシャルは受け継がれている。

ファミリーユース型マルチパスポイントという位置付けが強いランファン21、22は、釣り機能でも高い評価を受けてきた。例えばポイントへ急ぐ走行性能の高さは言うまでもなく、抜群の静止安定性「スローでの保針性の高さ（最近我々は「身持ちの良さ」という言葉を使っています）、当然各種シーアーカーや、パウモーター類もポイント上でピシッと効いてくれるし、リーウェイを意識的に起こさせても、ヘディングを保ちながらごく自然な姿勢を保ってくれる。まるでポイントにコンビユーターチップが埋め込まれているかのように「向くべき方向はこっちよ、あなた」と、ポイントに教えられているような気にもなる。総じてユーズとポイントの信頼関係の構築のし易さが最大の特徴と言える。その発展型として21セントラップ・バージョンが生まれ、釣り機能の高さをフィッシングユーズにアピール、多くのフィッシングファンが注目したことは読者の方々も御存知の通り。

だいたいトノクラフト社の社長である外周和彦氏が設計し建造するランファンは、バランスが飛び抜けて良い。ポトム構造に見られる最大幅×最大厚×350mm×25mmというボックススケールや、140mm幅のチェーン（8度下方設定）など、走りを中心に外周氏のマジックは、数値の机上での追求と、機り返し行われるテスト走行の両面から走り上げられたもので、そのマジックは当然プロフィッシャーにも踏襲されている。また「フォ



ミニコタ製40ポンドパワーモーターがセットされる。取付けというよりも、設計段階でパワーモーターが考えられていて、その意味でごく自然にフォルムにマッチする。

写実的従来のランファンシリーズと変わって、カティが船体中心に配置されたカティに長く見られるベンチシートは思いもよらずに、写実的突は、コントロールパネルとシート、トップに設置されたランファンが、このボートの個性を演出すし、オーナーヘッドコンソールもユーザには嬉しい装備。



ランファン21、21サントップバージョン、22と続くランファンファミリーの流れの中で、プロワイフシャイとしてこのフォルムの最大の変更点は、カティが船体の中央に配置されたことだろう。22の場合、船体中央軸とカティ中央軸とは120mm左舷側にずらして設置され、左舷側のサイドデッキは必要無し、と割り切った構造であり個性でもあった。実は今回の開発にあたって、設計は外岡氏だが、ユーザ代表としてプロワイフシャイマンの立場から、本誌コントリビューターの竹内真治氏がデフキアレンジメントのアドバイザーとして開発に参加した。釣りにどっぷりとはまり込んだ、羨ましい生活を日々送っているが、釣りに関してはプロだけあって相当にこだわるし、うるさい(僕が彼に同乗して釣りに行くとき、たいてい2人とも乏しい釣果

外岡和雄+竹内真治、2人のプロの開発参加

ルムに産線を用いた外岡デザインの美しさ」というニュアンスの表現は、本誌でも何度となく使ってきた。よく仲間内で、21世紀にも適用するボートデザインの話題で盛り上がるが、当然ランファンは満場一致で(大体6人程度の酒席ではあるが)候補に入る。今回もこだわりのデザインは健在である。使い勝手の面で、個人的には一連のランファンシリーズの実寸値で700mmという間違いなくクラス最大の深さを持つデフキは、つくづく有り難いと思っっている。よくランファン21や22に乗られるユーザの方から、子供連を乗せた時の安全性はびかーという声を聞く。たまたまノーキッズという家族構成の我が家の場合、海に出る時はほとんど遊び仲間の大人連だけ、やることは大宴会と釣り。ロッドを舷側から出して、大抵、当たりの良い日というのは、沖合いで波に揉まれていた時が多い。そんな時、深いデフキの御利益を痛感する。



バックデッキはパワーモーターを100%生かすためにストレージの開放方向を写真のようにした。アンカーロープ類を引っ張り戻すのではなく、引き出す船。使ってみると非常に効率的だ。



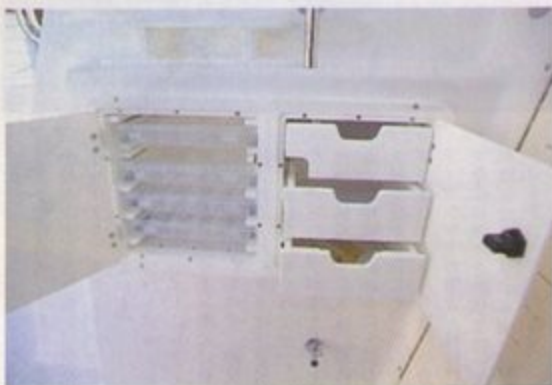
ステアリング回りを見る。円形のインパネトップは興味深い。オーバーヘッドコンソールがあるからできるデザインのおかげだ。



4連のロッドホルダーの設置は、フィッシングユーザーにとっては有り難い設備。スターンベンチを兼ねたストレージ内部はバッテリースペースなどとして利用。



乗船性・釣り易さを求めたアフトデッキ。ひとクラス上のデッキスペースを確保した点はバリエーションの価値が高まる。



もともとこの部分は、ランファン21設計の頃から、ゲストボックスにしたり、フールボックスにしたりと、ユーザーのためのユーティリティが考えられてきた。このプロフィッシャーでは、ダブルボックスという考えに達した。



ステアリング左にカディリア、さらに左舷側にはトノクラフ社のこだわりとも言えるドリフトホルダー、ダブルボックスなどの細工が見られる。

なのは福東部の七不思議。その竹内氏の意向が、魚を追い掛け回すのに、サイドデッキは両サイドにあるべきだ、というものだった。まあ、プロというものは、チャンスを見逃さないというか、立場上逃さないというのか、その姿勢は絶対的ライターの向こうの魚とのやり取りで、デッキが無いがために……、というのは避けたいところだろう。カディをセンターに持ってきて、誰が見てもランファンシリーズと、パッと見て解るあたりは、外周デザインの上手さであり凄さである。一般的にカディが左舷に寄っているところを見て、ランファンであることとを視認する。ところが、ごく当たり前にセンター配置としてみても、他メーカーの多いボートにその存在は紛れ込まない。

話題の中心がカディの配置になってしまったが、ついでにエビソッドを御紹介すると、すでにデッキに配置された、フランスの取れたフォルムのカディを見て、竹内氏からのリクエストは、カディ後端(アフトデッキ側)の「数十cm切り落とし」だった。外周、竹内氏の激しい攻防戦がそこにはあったと聞くが、プロファイシャーとしての機能性を高めるために、竹内氏の意見が通ることになった。彼が望んだ数十cmの切り落としの目的はこうだ。クルっとドライブバースの目的は回転させて(このシートも従来の固定式から変更された)、座ったままスロットロッドを、右手にロッド、または置き竿という姿勢、または立ったままスロットロッドを振り返しながら、右舷側からロッドを展開する。そのためには、カディ後端が邪魔だった。釣りはビンポイント狙いという実践論を持つ彼らしい要求である。同時にビンポイント狙いでの釣行を効率的に行うためには、ボートサイズの上限は22、23フィートあたりまでが理想的、という理論も彼は持つ。デッキアレンジでは、これもカディ絡みの話になるが、一般的にカディ前に見られるカディ一体型のベンチシートは排



爆釣への道。フィッシングスペシャルボートとしての ランファン・プロフィッシャーでいかに楽しむか、答えはユーザー次第。

除されている。またランファンワタミ
リーの独特のベンチ形状であった、平円
型のベンチも当然無い。完全にフラット
なウエークアラウンドデッキに、機能性
の答えを求めている。

21サントップバージョンと同様に、こ
のプロフィッシャーにもサントップは装
着される。デザイン的には新たに外周氏
が描き起こしたもので、綺麗な曲線で構
成される。ハードトップ重量はおそらく
40〜50kgあたりだろうが、しっかりとし
たステンパイプが支える。トノクラフト
社の製品のポイントは、艇体剛性にもあ
る。艇体剛性があるにも関わらず、ステ
ン製支柱がやわらかく、恐ろしい程にトッ
プが歪むポイントにも時折出会うが、プロ
フィッシャーの場合、後付けされたトッ
プ全体の強度と艇体との一体感に強く、
不快さは皆無。トップ後端には4連ロ
ケットランチャーが付くし、オーバハッ
ドコンソールも用意され、機能性と
フィッシャーマンとしてのワァッシュン
性を持つ。

高速45ノットでの移動を可能とした
プロフィッシャーの可能性

プロフィッシャーにはエンジンセット
ケースとして3パターンが、メーカーで
あるトノクラフト社から推奨されている。
まずホンダ製BF90艇体とエンジンセット
で39.8万円、さらにヤマハ製F115
A/FI(同じく42.5万5千円)、そして
ホンダBF130(同じく43.8万円)の
3パターン。搭載可能馬力は、90馬力
から225馬力までと発表されているが、
22フィートで225馬力の船外機をマウ
ントできるボートは少ない。だいたいス
ターンの浮力がもたないのだが、圧倒的
な艇体浮力を誇るランファンらしいところ
である。個人的には推奨3銘柄の中か
らエンジンを選び、33〜35ノットあたり
のスピードを求めよう。

試乗当日は前編海釣後の大荒れ模様。
試乗水面となった浜名湖ですら相当に

風波が立ち捲り、遠州灘でのシートライ
アルは見送ることとした。

試乗用に用意された1号艇にはヤマハ
製225馬力のエンジンがマウントされ、
是非ともロングテイクスタンスでのマッ
チングテストを行ってみたいのだが
……………、湖内の限られた水面でのデータ
としては、1100kgの艇体は、一気に
35ノットまで延び、ひと呼吸おいてマッ
クス42ノットに届く。チューニングひ
つで、プラス3ノットは堅いだろう。
ガツガツとした艇体剛性の中で、そのス
タビリティの高さを体感しつつ、40ノッ
トを超えていくのは、さすがに気持ち
良い。

旋回性能についてはナチュラなステ
アリング感覚で、イメージ通りのコース
をトレースできるし、風波の中での静止
安定性も、30フィートオーバーのボート
のポテンシャルと大差なく快適である。
冒頭で書いたままのランファン一旗の
ポテンシャルは、進化した形で受け継が
れている。残念ながらパウモーターで
キビキビしたコントロールこそテストで
きなかったが、ソルトでのパウモーター
教習である(本誌連載記事ではジギ
ング教習とも名付けた。本人は嫌がっ
ているようだが、また今月号でもパウモ
ーターコントロール術の短期連載を開始し
て買っている)竹内氏が太鼓判を押すこ
とに何ら疑う予知は無いと思う。

(釣れそう、このボートは)これが
フアーストインプレッションである。
基本的なお話立ては外岡氏と竹内氏の
2人のプロによって完成している。後は、
このプロフィッシャーを手に入れること
のできる幸運なユーザーが、自分のポ
ートフィッシングスタイルに合わせて、い
かにカスタマイズしていくか、羨ましい
オーナー特権である。

ランファン・プロフィッシャーは、僕
が是非とも今年遠征釣行を行いたい小
ボートのベスト5に浮上してきた。
(写真と文 大野)



1 右側のランファン・プロフィッシャーに搭載するGPSのボイス、カメラはスロトロープの高パワースピードの釣具、バックシートも搭載した。足元の空間にも余裕が生まれました。



2



3 右側で、二台にはスロトロープへ、魚釣りの行先地、この船に備えるGPSは、これに多い。左は、バックシートに搭載したカメラ、この船に備えるGPSは、これに多い。左は、バックシートに搭載したカメラ、この船に備えるGPSは、これに多い。



4



5 右側のランファン・プロフィッシャーに搭載するGPSのボイス、カメラはスロトロープの高パワースピードの釣具、バックシートも搭載した。足元の空間にも余裕が生まれました。



6

SONIX

6型液晶・GPS&魚探

(ボート ヨット・バス・シーバスで活躍)

直射日光下でも夜間でも、ドットも細かく鮮明画像の本格派!!

液晶モニター 3枚付

魚探画面

液晶モニター 3枚付



写真SLV-301

海図固定 簡便
全機種ケース付
(ランファン・プロフィッシャー
のみの購入で7500
円のお得なサービス)

写真SVC-701

- ・SPC-501(GPS) ¥168,000
- ・SPC-601(魚探) ¥148,000
- ・SVC-701(GPS&魚探) ¥188,000
- ・SPC-501DGP(GPS) ¥268,000
- ・SLP-101(GPS) ¥138,000
- ・SLP-201(魚探) ¥118,000
- ・SLV-301DGP(GPS&魚探) ¥268,000
- ・SLV-301(GPS&魚探) ¥168,000

カタログ請求承ります。プロッター地図は全国6分割。地図カードの購入は必要ありません。

http://www.2u.biglobe.ne.jp/sonix/ 美ソニック(株)
430-0822 静岡県浜西市西浜八幡20-2
ホームページアドレス TEL(0559)33-6700(代) FAX(0559)33-6701

ランファン・プロフィッシャー スペック	
全長	6.55m
全幅	2.35m
全深	0.34m
船体重量	1100kg
エンジン	HP90 F115AFT HP130
燃料容量	145L
空位	8名
航行区域	国内沿海
価格	HP90をセットして ¥3,980,000 F115AFTをセットして ¥4,255,000 HP130をセットして ¥4,380,000

記事中の各種装備品の扱い(標準またはオプション)については、メーカーにお問い合わせください。

問い合わせ: トノクラフト株式会社 TEL0548-54-1119